

経験や工夫を伝え 梨の剪定講習会

日本農業新聞掲載日：令和8年1月7日(水)

稲城の梨生産組合は12月下旬、稲城市で剪定(せんてい)講習会を開いた。組合員ら38人が参加。講師は南多摩農業改良普及センターの中野優輝主任普及指導員が務めた。

会場は、7月の稲城の梨生産組合立毛品評会で1位になった篠崎益朗さん(69)の畑。中野主任が剪定の基本や、のこぎりを使った徒長枝の棚付け方法を説明した。その後、篠崎さんが経験を踏まえた剪定の考え方や工夫を説明しながら実演をした。終了後は、稲城市のJA東京みなみ稲城支店で座学を行った。

中野主任が「あきづきのコルク症」や「土壌検査診断書の見方と活用方法」について解説。「梨の剪定作業が本格的に始まるタイミングで基本を確認することが重要。樹勢を適正に保つよう、各園での剪定作業の参考にして欲しい」と話した。



剪定の説明をする篠崎さん(中央)(東京都稲城市で)